

※このメールマガジンはMSゴシック等の等幅フォントでご覧ください。

★もくじ★

〔1〕 1分で分かる姫路河川国道事務所の仕事「所長の一分メモ」

加古川大堰が「おとな」になります。

〔2〕 お知らせ

大気常時観測局の平成19年度測定結果の公表について

〔1〕 所長の一分メモ file17

明日7月26日で加古川大堰は完成20周年を迎えます。

人間で言えばようやく新成人です。これまでの20年間、加古川大堰は人口が急増している周辺地域を水害から守り、飲み水や農業用水、工業用水の取水により地域の経済発展や生活を守ってきました。

具体的には、加古川大堰の完成直前に加古川市の水道水の需要量が供給量を上回り、加古川大堰から取水ができるようになって水不足が間一髪で回避されましたし、加古川流域に多大な被害をもたらした平成16年の台風23号では、試算すると昔の固定堰のままだったら水位が約2.5mも高くなり堤防から水が溢れ大きな水害が生じていたと推測されます。

加古川大堰のような公共の社会資本は、工事が終わればそれで終わり、ということではなく、その効果は加古川大堰がある限り延々と発揮されます。電気製品を生産する工場と同じです。

しかし一方で、加古川大堰の完成当時のことをご存じない、最近この地に住まれた方々や二十歳前の方々には、加古川大堰の役割やこれが生活とどう結びついているのかご存じない方がほとんどのように感じられます。

加古川沿いで居を構え、生活しておられる方々にこそ、税金で作られた大堰のことを知っておいていただかなければなりませんし、管理者である姫路河川国道事務所は伝えていかなければなりません。

これからは、地域の将来を担う子供たちを中心に、機会ある毎にわかりやすい情報提供を心がけたいと考えております。

皆様、「おとな」になりました加古川大堰をこれまで同様、大切に、暖かく、誇りをもって見守って下さいますようお願いいたします。

\* 姫路河川国道事務所では、明日7月26日に加古川大堰完成20周年を記念しまして、『加古川大堰20周年感謝のつどい』を開催します。

『加古川大堰20周年感謝のつどい』の詳細い内容については、当事務所ホームページ「話そうはりま」(<http://www.himeji.kkr.mlit.go.jp/>)の「記者発表」に掲載していません。是非、ご覧下さい。

〔2〕 お知らせ

大気常時観測局の平成19年度測定結果を公表しています。

近畿地方整備局では、沿道環境の状況を日常的に把握し、沿道環境対策を計画的かつ効果的に推進するため、管内36箇所(H20.3末現在)の常時観測局により、大気の測定を行っています。

